

令和6年度 政策コスト分析結果一覧（内訳・感応度）

（単位：億円）

機 関 名		政策コスト	国の支出 (補助金等)	国の収入 (国庫納付等)	出資金等による 機会費用 =a+b+c	分析期首まで に投入された 出資金等 a	分析期間中に新たに 見込まれる政策コスト		(感応度分析) 前提金利 +1%ケース	(感応度分析) 個別前提 ±1%ケース
							剰余金等 の増減 b	出資金等 の増加 c		
合 計	6年度	57,724	22,420	△76,863	112,168	146,179	△35,388	1,376	95,536	62,147
	5年度	35,645	22,798	△88,361	101,208	136,754	△36,908	1,361	71,421	38,447
	増減	+22,079	△378	+11,498	+10,959	+9,425	+1,520	+15	+24,115	+23,700
〈特別会計〉										
食料安定供給特別会計	6年度	40	40	—	—	—	—	—	40	40
	5年度	48	48	—	—	—	—	—	48	49
	増減	△8	△8	—	—	—	—	—	△8	△8
エネルギー対策特別会計	6年度	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	5年度	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	増減	—	—	—	—	—	—	—	—	—
自動車安全特別会計	6年度	△1,511	8,807	△8,508	△1,811	—	△1,811	—	509	△775
	5年度	△5,402	8,697	△13,863	△236	—	△236	—	△2,971	△4,993
	増減	+3,891	+110	+5,355	△1,574	—	△1,574	—	+3,480	+4,218
〈政府関係機関〉										
(株) 日本政策金融公庫	6年度	18,293	2,492	△8,502	24,303	40,791	△16,489	1	19,447	18,532
	5年度	17,302	2,211	△11,545	26,635	37,679	△11,128	85	18,054	17,545
	増減	+991	+281	+3,043	△2,332	+3,112	△5,361	△84	+1,393	+987
国民一般向け業務勘定	6年度	7,250	680	△6,416	12,986	23,604	△10,619	0	6,716	7,364
	5年度	4,568	699	△9,453	13,322	22,315	△9,000	8	3,570	4,679
	増減	+2,681	△19	+3,037	△337	+1,289	△1,619	△7	+3,146	+2,686
中小企業者向け融資・ 証券化支援保証業務勘定	6年度	4,210	880	—	3,330	10,569	△7,239	0	5,618	4,293
	5年度	5,163	920	—	4,243	9,248	△5,060	56	6,663	5,261
	増減	△953	△40	—	△913	+1,322	△2,179	△56	△1,045	△968
農林水産業者向け業務 勘定	6年度	1,934	871	△2,085	3,148	3,129	19	0	2,348	1,953
	5年度	1,515	532	△2,091	3,075	3,035	19	21	1,961	1,518
	増減	+419	+340	+6	+73	+94	+0	△21	+387	+435
危機対応円滑化業務勘定	6年度	4,849	11	—	4,838	3,488	1,349	0	4,717	4,871
	5年度	6,005	12	—	5,993	3,080	2,912	0	5,812	6,036
	増減	△1,156	△0	—	△1,155	+408	△1,563	+0	△1,095	△1,166
特定事業等促進円滑化 業務勘定	6年度	50	49	—	2	1	1	—	48	51
	5年度	51	49	—	2	1	1	—	49	51
	増減	△0	+0	—	△0	+0	△0	—	△0	△0
沖縄振興開発金融公庫	6年度	△38	30	△867	800	766	0	33	23	△37
	5年度	△171	25	△928	731	699	0	32	△80	△170
	増減	+133	+4	+61	+68	+67	△0	+2	+103	+133
(株) 国際協力銀行	6年度	1,153	—	△6,570	7,723	7,814	△514	424	3,060	1,214
	5年度	1,099	—	△5,787	6,886	7,092	△522	316	2,416	1,161
	増減	+53	—	△784	+837	+721	+8	+108	+644	+53
一般業務勘定	6年度	1,054	—	△6,165	7,219	7,023	△215	412	2,891	1,113
	5年度	917	—	△5,480	6,397	6,404	△312	305	2,191	976
	増減	+137	—	△685	+822	+619	+97	+107	+700	+137
特別業務勘定	6年度	98	—	△406	504	791	△299	12	169	101
	5年度	182	—	△307	489	689	△210	11	225	185
	増減	△84	—	△99	+15	+102	△89	+1	△56	△83
(独) 国際協力機構	6年度	15,145	—	△25,363	40,508	53,033	△12,832	308	25,259	15,164
	5年度	7,487	—	△26,113	33,600	50,242	△16,932	290	17,635	7,504
	増減	+7,658	—	+750	+6,908	+2,790	+4,099	+18	+7,624	+7,660

（注）各欄は単位未満四捨五入の端数処理により、合計において合致しない場合がある。

(単位:億円)

機 関 名		政策コスト	国の支出 (補助金等)	国の収入 (国庫納付等)	出資金等による 機会費用 =a+b+c	分析期首まで に投入された 出資金等 a	分析期間中に新たに 見込まれる政策コスト		(感応度分析) 前提金利 +1%ケース	(感応度分析) 個別前提 ±1%ケース
							剰余金等 の増減 b	出資金等 の増加 c		
〈独立行政法人等〉										
全国土地改良事業団体連合 会	6年度	15	15	—	—	—	—	—	15	15
	5年度	15	15	—	—	—	—	—	15	15
	増減	△0	△0	—	—	—	—	—	△0	△0
日本私立学校振興・共済事 業団（助成勘定）	6年度	17	—	△409	426	443	△16	—	85	18
	5年度	△5	—	△423	418	419	△1	—	66	△5
	増減	+22	—	+14	+8	+24	△15	—	+20	+23
（独）日本学生支援機構	6年度	982	1,251	△269	0	0	—	—	474	993
	5年度	578	1,066	△488	0	0	—	—	△119	590
	増減	+404	+184	+220	+0	+0	—	—	+593	+404
（独）福祉医療機構（一般 勘定）	6年度	456	35	—	420	736	△316	—	619	470
	5年度	△157	45	—	△202	708	△910	—	5	△149
	増減	+613	△9	—	+622	+28	+594	—	+614	+619
（独）国立病院機構	6年度	3,137	—	—	3,137	848	2,289	—	3,616	3,232
	5年度	2,590	—	△422	3,012	1,052	1,961	—	3,277	2,891
	増減	+547	—	+422	+125	△204	+329	—	+339	+341
（国研）国立成育医療研究 センター	6年度	△56	43	—	△99	59	△158	—	10	△24
	5年度	0	34	—	△34	52	△86	—	59	33
	増減	△56	+9	—	△65	+6	△72	—	△48	△57
（国研）国立長寿医療研究 センター	6年度	50	59	—	△8	38	△47	—	62	61
	5年度	44	38	—	6	37	△31	—	57	55
	増減	+6	+20	—	△14	+1	△15	—	+6	+5
（独）大学改革支援・学位 授与機構	6年度	4	4	—	—	—	—	—	4	4
	5年度	4	4	—	—	—	—	—	4	4
	増減	△0	△0	—	—	—	—	—	△0	△0
（独）鉄道建設・運輸施設 整備支援機構	6年度	6,349	6,319	—	30	130	△106	5	6,154	6,349
	5年度	7,108	7,099	△0	9	116	△107	—	6,849	7,108
	増減	△760	△780	+0	+20	+14	+1	+5	△695	△760
建設勘定	6年度	6,298	6,298	—	—	—	—	—	6,055	6,298
	5年度	7,077	7,077	—	—	—	—	—	6,770	7,077
	増減	△779	△779	—	—	—	—	—	△716	△779
海事勘定	6年度	25	—	—	25	130	△106	—	74	25
	5年度	9	—	—	9	116	△107	—	59	9
	増減	+15	—	—	+15	+14	+1	—	+15	+15
地域公共交通等勘定	6年度	27	22	—	5	0	—	5	26	27
	5年度	22	22	△0	—	—	—	—	20	22
	増減	+4	△1	+0	+5	+0	—	+5	+6	+4
（独）住宅金融支援機構	6年度	△792	1,081	△184	△1,689	2,483	△4,172	—	1,018	△748
	5年度	△1,737	1,189	△207	△2,719	2,334	△5,060	7	△1,168	△1,693
	増減	+945	△108	+23	+1,030	+149	+888	△7	+2,186	+946
住宅資金貸付等勘定	6年度	296	—	△53	348	142	206	—	284	298
	5年度	340	—	△20	360	128	225	7	317	343
	増減	△44	—	△33	△11	+15	△19	△7	△33	△45
証券化支援勘定	6年度	△1,088	1,081	△131	△2,038	2,340	△4,378	—	734	△1,046
	5年度	△2,078	1,189	△188	△3,079	2,206	△5,285	—	△1,485	△2,036
	増減	+989	△108	+56	+1,041	+134	+907	—	+2,219	+990

(注) 各欄は単位未満四捨五入の端数処理により、合計において合致しない場合がある。

(単位:億円)

機 関 名		政策コスト	国の支出 (補助金等)	国の収入 (国庫納付等)	出資金等による 機会費用 =a+b+c	分析期首まで に投入された 出資金等 a	分析期間中に新たに 見込まれる政策コスト		(感応度分析) 前提金利 +1%ケース	(感応度分析) 個別前提 ±1%ケース
							剰余金等 の増減 b	出資金等 の増加 c		
(独)都市再生機構(都市再生勘定)	6年度	△3,132	554	△9,799	6,114	5,420	691	3	3,930	△2,330
	5年度	△5,430	738	△12,238	6,070	5,359	709	1	2,711	△4,567
	増減	+2,299	△184	+2,439	+44	+60	△19	+2	+1,219	+2,237
(独)日本高速道路保有・債務返済機構	6年度	20,775	421	—	20,354	20,342	—	11	29,570	21,294
	5年度	17,330	426	—	16,904	16,894	—	9	25,585	18,064
	増減	+3,445	△6	—	+3,450	+3,448	—	+2	+3,985	+3,230
(独)水資源機構	6年度	1,181	1,211	—	△30	23	△53	—	1,164	1,192
	5年度	1,054	1,110	—	△56	19	△76	—	1,022	1,064
	増減	+127	+101	—	+26	+4	+22	—	+142	+128
(国研)森林研究・整備機構(水源林勘定)	6年度	7,093	55	—	7,038	6,483	△33	588	7,285	7,108
	5年度	7,166	48	—	7,118	6,353	144	622	7,324	7,181
	増減	△73	+7	—	△81	+130	△177	△34	△39	△73
(独)エネルギー・金属鉱物資源機構	6年度	3	3	△0	0	—	0	—	3	3
	5年度	3	3	△1	0	—	0	—	3	3
	増減	+0	+0	+0	△0	—	△0	—	+0	+0
金属鉱業一般勘定	6年度	3	3	△0	0	—	0	—	2	3
	5年度	3	3	△1	0	—	0	—	2	3
	増減	+0	+0	+0	△0	—	△0	—	+0	+0
石油天然ガス等勘定	6年度	0	0	—	—	—	—	—	0	0
	5年度	0	0	—	—	—	—	—	0	0
	増減	+0	+0	—	—	—	—	—	+0	+0
〈特殊会社等〉										
(株)日本政策投資銀行	6年度	△10,975	0	△16,129	5,154	6,672	△1,518	—	△6,558	△9,201
	5年度	△13,058	0	△16,185	3,127	7,604	△4,477	—	△9,358	△13,051
	増減	+2,083	△0	+56	+2,027	△932	+2,960	—	+2,801	+3,850
(一財)民間都市開発推進機構	6年度	△69	—	△90	21	—	21	—	△70	△69
	5年度	△64	—	△89	25	—	25	—	△66	△64
	増減	△5	—	△1	△4	—	△4	—	△4	△5
中部国際空港(株)	6年度	△395	—	△173	△222	99	△324	3	△183	△359
	5年度	△160	—	△74	△86	94	△180	—	55	△129
	増減	△235	—	△99	△137	+5	△144	+3	△238	△230

(注)各欄は単位未満四捨五入の端数処理により、合計において合致しない場合がある。

令和6年度 政策コスト分析結果一覧（経年比較）

（単位：億円）

機 関 名		政策コスト	実質増減の要因		分析期間 (年)	備考
合計	6 年度	57,724	実質増減を算出するための調整額 $\Delta 5,787$			
	5 年度	35,645	前提金利の影響 $\Delta 11,097$ 5 年度中の政策コスト $+5,310$			
	増減	$+22,079$				
	(実質増減)	$(+16,292)$				
〈特別会計〉						
食料安定供給特別会計	6 年度	40	実質増減を算出するための調整額 $+40$		16	
	5 年度	48	前提金利の影響 $+0$ 5 年度中の政策コスト $+40$		1	
	増減	$\Delta 8$	事業計画の変更による補助金等の増 $+32$		15	
	(実質増減)	$(+32)$				
エネルギー対策特別会計	6 年度	—	実質増減を算出するための調整額 $—$		16	
	5 年度	—	前提金利の影響 $—$ 5 年度中の政策コスト $—$		1	
	増減	$—$	【5、6 年度ともに政策コストは発生しない】		16	
	(実質増減)	$(—)$				
自動車安全特別会計	6 年度	$\Delta 1,511$	実質増減を算出するための調整額 $+1,533$		17	
	5 年度	$\Delta 5,402$	前提金利の影響 $\Delta 333$ 5 年度中の政策コスト $+1,866$		1	
	増減	$+3,891$	業務収入及び空港整備事業等の実績値の見直し等 $+6,777$ 6 年度新規借入に係る償還額増 $+419$ 新規事業等に伴う期末準備金残高の増 $\Delta 966$ 4 年度実績確定等 $\Delta 806$		18	
	(実質増減)	$(+5,424)$				
〈政府関係機関〉						
(株) 日本政策金融公庫	6 年度	18,293				
	5 年度	17,302				
	増減	$+991$				
	(実質増減)	$(+2,199)$				
国民一般向け業務勘定	6 年度	7,250	実質増減を算出するための調整額 $\Delta 167$		31	◎
	5 年度	4,568	前提金利の影響 $\Delta 1,003$ 5 年度中の政策コスト $+836$		1	
	増減	$+2,681$	貸倒償却 $+2,110$ 4 年度実績確定等 $+1,284$ その他（新規融資による事務費の増等） $+379$ 新規融資 $\Delta 1,217$ 繰上償還 $\Delta 42$		31	
	(実質増減)	$(+2,514)$				
中小企業者向け融資・証券化支援保証業務勘定	6 年度	4,210	実質増減を算出するための調整額 $+633$		21	◎
	5 年度	5,163	前提金利の影響 $\Delta 462$ 5 年度中の政策コスト $+1,095$		1	
	増減	$\Delta 953$	4 年度実績確定等 $+888$ 貸倒償却 $+201$ 新規融資 $\Delta 1,116$ 繰上償還 $\Delta 124$ その他（回収金運用収入の増等） $\Delta 170$		21	
	(実質増減)	$(\Delta 321)$				
農林水産業者向け業務勘定	6 年度	1,934	実質増減を算出するための調整額 $+97$		60	◎
	5 年度	1,515	前提金利の影響 $\Delta 77$ 5 年度中の政策コスト $+174$		1	
	増減	$+419$	新規融資 $+611$ 繰上償還 $+31$ 4 年度実績確定等 $+14$ 貸倒償却 $\Delta 123$ その他（社債調達実績確定等） $\Delta 18$		60	
	(実質増減)	$(+515)$				
危機対応円滑化業務勘定	6 年度	4,849	実質増減を算出するための調整額 $+641$		20	◎
	5 年度	6,005	前提金利の影響 $\Delta 201$ 5 年度中の政策コスト $+842$		1	
	増減	$\Delta 1,156$	4 年度における損害担保の引受実績確定に伴う補償金支払見込額の減等 $\Delta 515$		20	
	(実質増減)	$(\Delta 515)$				
特定事業等促進円滑化業務勘定	6 年度	50	実質増減を算出するための調整額 $+5$		25	◎
	5 年度	51	前提金利の影響 $+0$ 5 年度中の政策コスト $+5$		1	
	増減	$\Delta 0$	利子補給事業に係る補助金の増等 $+5$		25	
	(実質増減)	$(+5)$				
沖縄振興開発金融公庫	6 年度	$\Delta 38$	実質増減を算出するための調整額 $\Delta 6$		37	◎
	5 年度	$\Delta 171$	前提金利の影響 $\Delta 31$ 5 年度中の政策コスト $+25$		1	
	増減	$+133$	4 年度実績確定等 $+105$ 貸倒償却 $+33$ その他（新規融資による事務費の増等） $+77$ 新規融資 $\Delta 82$ 繰上償還 $\Delta 5$		37	
	(実質増減)	$(+127)$				
(株) 国際協力銀行	6 年度	1,153				
	5 年度	1,099				
	増減	$+53$				
	(実質増減)	$(\Delta 654)$				
一般業務勘定	6 年度	1,054	実質増減を算出するための調整額 $\Delta 675$		28	◎
	5 年度	917	前提金利の影響 $\Delta 280$ 5 年度中の政策コスト $\Delta 395$		1	
	増減	$+137$	4 年度実績確定等 $+91$ 貸倒償却 $+21$ 繰上償還 $+10$ 5 年度予算及び財投計画の補正等 $\Delta 375$ 新規融資 $\Delta 221$ その他（円安に伴う円換算後の利ざや増等） $\Delta 64$		29	
	(実質増減)	$(\Delta 538)$				
特別業務勘定	6 年度	98	実質増減を算出するための調整額 $\Delta 32$		20	◎
	5 年度	182	前提金利の影響 $\Delta 22$ 5 年度中の政策コスト $\Delta 10$		1	
	増減	$\Delta 84$	4 年度実績確定等 $+66$ 貸倒償却 $+37$ 繰上償還 $+4$ 新規融資 $\Delta 180$ その他（保証料の増等） $\Delta 43$		20	
	(実質増減)	$(\Delta 116)$				
(独) 国際協力機構	6 年度	15,145	実質増減を算出するための調整額 $\Delta 4,248$		51	◎
	5 年度	7,487	前提金利の影響 $\Delta 3,975$ 5 年度中の政策コスト $\Delta 274$		1	
	増減	$+7,658$	新規融資 $+2,554$ その他（新規融資に伴う事務費の増等） $+3,355$ 4 年度実績確定等 $\Delta 2,499$		50	
	(実質増減)	$(+3,410)$				

（注1）各欄は単位未満四捨五入の端数処理により、合計において合致しない場合がある。

（注2）実質増減の要因欄の「実質増減を算出するための調整額」は、「前提金利の影響」と「5年度中の政策コスト」との合計である。

（注3）備考欄に◎を付した機関等は、発生要因別政策コスト内訳を試算・記載している。

機 関 名		政策コスト	実質増減の要因	分析期間 (年)	備考
(独立行政法人等)					
全国土地改良事業団体連合会	6年度	15	実質増減を算出するための調整額 +15 前提金利の影響 +0 5年度中の政策コスト +15	6	
	5年度	15		1	
	増減	△0	新規事業の実施による補助金 +15	6	
	(実質増減)	(+15)			
日本私立学校振興・共済事業 団 (助成勘定)	6年度	17	実質増減を算出するための調整額 △9 前提金利の影響 △10 5年度中の政策コスト +1	31	
	5年度	△5	貸倒償却 +15 その他(新規融資による事務費の増等) +40 新規融資 △42	1	◎
	増減	+22		31	
	(実質増減)	(+13)			
(独) 日本学生支援機構	6年度	982	実質増減を算出するための調整額 +173 前提金利の影響 +67 5年度中の政策コスト +106	26	
	5年度	578	新規融資 +142 繰上償還 +87 新規融資等に伴う管理費の増 +75 返還免除実績の増 +42 貸倒償却 +31 その他(運用収入の減等) +225 無利子貸与事業の除外によるコスト減 △16 4年度実績確定等 △9	1	◎
	増減	+404		26	
	(実質増減)	(+577)			
(独) 福祉医療機構 (一般勘定)	6年度	456	実質増減を算出するための調整額 +37 前提金利の影響 △25 5年度中の政策コスト +62	36	
	5年度	△157	運用収入の増 +376 貸倒償却 +250 4年度実績確定等 +159 7年度以降の財投機関債発行見込額の増 +16 新規融資 △58 その他(期首欠損金の増) △93	1	◎
	増減	+613		37	
	(実質増減)	(+650)			
(独) 国立病院機構	6年度	3,137	実質増減を算出するための調整額 +11 前提金利の影響 △79 5年度中の政策コスト +90	32	
	5年度	2,590	ベアを見込んだことに伴う人件費増等 +851 5年度における前倒し国庫納付等に伴う期首準備金残高の減 △293	1	
	増減	+547		42	
	(実質増減)	(+558)			
(国研) 国立成育医療研究セ ンター	6年度	△56	実質増減を算出するための調整額 △5 前提金利の影響 △10 5年度中の政策コスト +5	16	
	5年度	0	「女性の健康」ナショナルセンター機能の拡充による政府補助金の増等 +9 「女性の健康」ナショナルセンター機能の拡充による研究収益の増等 △72	1	
	増減	△56		16	
	(実質増減)	(△61)			
(国研) 国立長寿医療研究セ ンター	6年度	50	実質増減を算出するための調整額 +3 前提金利の影響 △2 5年度中の政策コスト +6	28	
	5年度	44		1	
	増減	+6	運営費交付金の増 +22 診療収支の改善 △12	29	
	(実質増減)	(+10)			
(独) 大学改革支援・学位授 与機構	6年度	4	実質増減を算出するための調整額 +1 前提金利の影響 +0 5年度中の政策コスト +1	35	
	5年度	4		1	◎
	増減	△0	新規融資に伴う運営費交付金の増 +1	35	
	(実質増減)	(+1)			
(独) 鉄道建設・運輸施設整 備支援機構	6年度	6,349			
	5年度	7,108			
	増減	△760			
	(実質増減)	(+37)			
建設勘定	6年度	6,298	実質増減を算出するための調整額 +809 前提金利の影響 +5 5年度中の政策コスト +803	21	
	5年度	7,077		1	
	増減	△779	各年度の事業計画の変更 +30	22	
	(実質増減)	(+30)			
海事勘定	6年度	25	実質増減を算出するための調整額 △13 前提金利の影響 △9 5年度中の政策コスト △4	18	
	5年度	9	事務費の増 +9 その他(4年度船見込改定等) +5 6年度船分の利差 △12	1	◎
	増減	+15		18	
	(実質増減)	(+2)			
地域公共交通等勘定	6年度	27	実質増減を算出するための調整額 +1 前提金利の影響 +0 5年度中の政策コスト +1	39	
	5年度	22		1	◎
	増減	+4	6年度新規出資分に係る機会費用の増 +5 運営費交付金の増 +1	40	
	(実質増減)	(+6)			

(注1) 各欄は単位未満四捨五入の端数処理により、合計において合致しない場合がある。

(注2) 実質増減の要因欄の「実質増減を算出するための調整額」は、「前提金利の影響」と「5年度中の政策コスト」との合計である。

(注3) 備考欄に◎を付した機関等は、発主要因別政策コスト内訳を試算・記載している。

機 関 名		政策コスト	実質増減の要因	分析期間 (年)	備考
(独) 住宅金融支援機構	6 年度	△ 792			
	5 年度	△ 1, 737			
	増減	+ 945			
	(実質増減)	(+ 195)			
住宅資金貸付等勘定	6 年度	296	実質増減を算出するための調整額 △ 18 前提金利の影響 △ 38 5 年度中の政策コスト + 20	40	
	5 年度	340	新規融資による事務費の増 + 6 新規融資 + 2 貸倒償却 △ 52	1	◎
	増減	△ 44	4 年度実績確定等 △ 19	40	
	(実質増減)	(△ 63)			
証券化支援勘定	6 年度	△ 1, 088	実質増減を算出するための調整額 △ 731 前提金利の影響 △ 598 5 年度中の政策コスト △ 133	36	
	5 年度	△ 2, 078	4 年度実績確定等 + 1, 281 貸倒償却 + 163 その他 (新規買取による事務費の増等) + 583	1	◎
	増減	+ 989	6 年度新規買取分の利差 △ 1, 208 繰上償還 △ 561	36	
	(実質増減)	(+ 258)			
(独) 都市再生機構 (都市再生勘定)	6 年度	△ 3, 132	実質増減を算出するための調整額 △ 1, 549 前提金利の影響 △ 1, 747 5 年度中の政策コスト + 198	80	
	5 年度	△ 5, 430	賃貸住宅業務収入の減等による国庫納付金の減 + 780 新規事業の実施等による補助金の増 + 41	1	
	増減	+ 2, 299	無利子借入金受入額の増等による機会費用の増 + 3 期首利益剰余金の減等による機会費用の減 △ 74	80	
	(実質増減)	(+ 749)			
(独) 日本高速道路保有・債務返済機構	6 年度	20, 775	実質増減を算出するための調整額 △ 1, 512 前提金利の影響 △ 1, 627 5 年度中の政策コスト + 114	41	
	5 年度	17, 330	出資金返還時期の見直しによる機会費用の増 + 1, 823 新規事業の実施等による補助金等の増 + 109	1	
	増減	+ 3, 445		36	
	(実質増減)	(+ 1, 932)			
(独) 水資源機構	6 年度	1, 181	実質増減を算出するための調整額 + 102 前提金利の影響 △ 16 5 年度中の政策コスト + 118	38	
	5 年度	1, 054	新規事業の実施による補助金等の増 + 201 4 年度実績確定等 + 51	1	
	増減	+ 127	分析期間の延長による利益剰余金の増 △ 23	32	
	(実質増減)	(+ 229)			
(国研) 森林研究・整備機構 (水源林勘定)	6 年度	7, 093	実質増減を算出するための調整額 + 1 前提金利の影響 △ 6 5 年度中の政策コスト + 6	89	
	5 年度	7, 166		1	
	増減	△ 73	造林木販売収入の増等 △ 73	89	
	(実質増減)	(△ 73)			
(独) エネルギー・金属鉱物資源機構	6 年度	3			
	5 年度	3			
	増減	+ 0			
	(実質増減)	(+ 1)			
金属鉱業一般勘定	6 年度	3	実質増減を算出するための調整額 + 0 前提金利の影響 + 0 5 年度中の政策コスト + 0	16	
	5 年度	3		1	◎
	増減	+ 0	新規融資に伴う事務費の増 + 0	16	
	(実質増減)	(+ 0)			
石油天然ガス等勘定	6 年度	0	実質増減を算出するための調整額 + 0 前提金利の影響 + 0 5 年度中の政策コスト + 0	14	
	5 年度	0		1	◎
	増減	+ 0	新規融資に伴う事務費の増 + 0	14	
	(実質増減)	(+ 0)			
(特殊会社等)					
(株) 日本政策投資銀行	6 年度	△ 10, 975	実質増減を算出するための調整額 △ 922 前提金利の影響 △ 612 5 年度中の政策コスト △ 311	40	
	5 年度	△ 13, 058	4 年度実績確定及び第 5 次中計見直しの方針等の反映 + 770 分析期間の短縮 + 391	1	◎
	増減	+ 2, 083		41	
	(実質増減)	(+ 1, 161)			
(一財) 民間都市開発推進機構	6 年度	△ 69	実質増減を算出するための調整額 △ 5 前提金利の影響 △ 1 5 年度中の政策コスト △ 4	31	
	5 年度	△ 64	4 年度実績確定等 + 51 貸倒償却 + 6 新規融資 △ 63	1	◎
	増減	△ 5	その他 (分析期間の短縮に伴う事務費の減等) △ 4	40	
	(実質増減)	(△ 10)			
中部国際空港 (株)	6 年度	△ 395	実質増減を算出するための調整額 + 6 前提金利の影響 △ 6 5 年度中の政策コスト + 12	18	
	5 年度	△ 160	売上原価、施設維持費、水光熱費等の経費増 + 155 代替滑走路の整備に係る無利子資金の借入 + 10	1	
	増減	△ 235	新型コロナウイルスの感染拡大に伴い減少した航空需要の回復等 △ 394	19	
	(実質増減)	(△ 229)			

(注 1) 各欄は単位未満四捨五入の端数処理により、合計において合致しない場合がある。

(注 2) 実質増減の要因欄の「実質増減を算出するための調整額」は、「前提金利の影響」と「5 年度中の政策コスト」との合計である。

(注 3) 備考欄に◎を付した機関等は、発生要因別政策コスト内訳を試算・記載している。

(凡例)分析結果の見方

(仮)財政融資活用機構

<https://www.〇〇〇.go.jp/>

1. 財政投融資を活用している事業の主な内容

- ・必要な事業者等への、長期・低利の資金融資を行っている。
- ・公共施設の建設事業を行っている。

2. 財政投融資計画額等

(単位:億円)

6年度財政投融資計画額	5年度末財政投融資残高見込み
10,000	75,000

3. 当該事業に関する政策コスト分析の試算値

① 政策コスト

(単位:億円)

区 分	5年度	6年度	増 減
1.国の支出(補助金等)	100	400	+300
2.国の収入(国庫納付等) ※	△2,000	△2,500	△500
3.出資金等の機会費用分	2,500	2,600	+100
1～3 合計＝政策コスト(A)	600	500	△100
分析期間(年)	27年	26年	△1年

② 投入時点別政策コスト内訳

(単位:億円)

区 分	5年度	6年度	増 減
(A) 政策コスト【再掲】	600	500	△100
① 分析期首までに投入された出資金等の機会費用分	3,000	3,500	+500
② 分析期間中に新たに見込まれる政策コスト	△2,400	△3,000	△600
国の支出(補助金等)	100	400	+300
国の収入(国庫納付等) ※	△2,000	△2,500	△500
剰余金等の機会費用分	△600	△1,000	△400
出資金等の機会費用分	100	100	-

③ 経年比較分析(対前年度実質増減額の算出)

(単位:億円)

政策コスト	単純比較(調整前)	5年度	6年度	単純増減
	経年比較(調整後)	600	500	△100
		①分析始期の調整(分析始期を6年度分析に合わせた結果)	②前提金利の調整(5年度の前提金利で再試算した結果)	実質増減(②-①)
		550	400	△150

【実質増減額の要因分析】

○ 政策コストの増加要因

- ・4年度実績確定及び5年度見込改定によるコスト増 (+150億円)
- ・貸貸業務収入を見直したことによるコスト増 (+100億円)
- ・繰上償還の増によるコスト増 (+50億円)
- ・その他の要因(新規融資による事務費の増等) (+50億円)

○ 政策コストの減少要因

- ・6年度新規融資分の利差によるコスト減 (△400億円)
- ・貸倒の減によるコスト減 (△100億円)

④ 発生要因別政策コスト内訳

(単位:億円)

(A)6年度政策コスト【再掲】	500
① 繰上償還	200
② 貸倒	3,000
③ その他(利ざや等)	△2,700

⑤ 感応度分析(前提条件を変化させた場合)

(単位:億円)

(A) 政策コスト【再掲】	前提金利+1%ケース	増減額	1. 国の支出(補助金等)	2. 国の収入(国庫納付等) ※	3. 出資金等の機会費用
500	3,000	+2,500	+1,000	△2,500	+4,000
(A) 政策コスト【再掲】	〇〇1%ケース	増減額	1. 国の支出(補助金等)	2. 国の収入(国庫納付等) ※	3. 出資金等の機会費用
500	3,000	+2,500	+1,000	△2,500	+4,000

(注) 各欄は単位未満四捨五入の端数処理により、合計において合致しない場合がある。

※ 国の収入(国庫納付等)は、収入がある場合マイナス計上する。 例: △100億円…100億円の国庫納付等を表す。

要因分析：算出された政策コストを構成要素別に分解したものです。この分析によって試算された政策コストがどのように構成されているかを知ることができます。

- 「1. 国の支出（補助金等）」 → 国（一般会計等）からの補助金・補給金・交付金に係る政策コスト
- 「2. 国の収入（国庫納付等）」 → 国（一般会計等）への納付金・法人税等に係るマイナスの政策コスト
- 「3. 出資金等の機会費用分」 → 国（一般会計等）からの出資金・無利子貸付による利払軽減効果（機会費用）に係る政策コスト

ここでは当年度の政策コストが 500 億円（対前年度 100 億円の減少）と試算されています。

経年比較分析：前年度分析と比較するため、前提金利等の影響を排除した実質増減額を把握します。

ここでは、前提金利等の変化による影響を除いて前年度分析と比較した場合、主に表の下に記述された要因による政策コストの実質増減は、150 億円の減少という試算結果となっています。

投入時点別政策コスト内訳：出資金等による機会費用を、分析期首までに投入された出資金等から発生する部分と、将来（分析期間中に）新たに投入される出資金等から発生する部分に区分し把握します。

ここでは、①既に投入された出資金等による利払軽減効果（機会費用）が分析期首までに政策コストとして 3,500 億円生じており、②分析期間中に見込まれる補助金・出資金等の投入により△3,000 億円の政策コストが生じるという試算結果となっています。

発生要因別政策コスト内訳：融資事業を行う機関において、繰上償還や貸倒が政策コストに与える影響額を把握します。

- 「①繰上償還」 → 融資先から財投機関が受けると見込まれる繰上償還によって発生する政策コスト
- 「②貸倒」 → 分析期間中に見込まれる貸倒償却額と貸倒引当金の繰入・戻入差額によって発生する政策コスト
- 「③その他（利ざや等）」 → 事務費や利ざや等その他の要因によるもの

感応度分析：前提金利や事業収入といった一部の前提条件を変化させることによって、政策コストがどれだけ増減するかを試算したものです。

4. 分析における試算の概要及び将来の事業見通し等の考え方

- ① 試算の対象：(仮)財政融資活用機構の全ての融資事業と一部の公共事業
- ② 試算の対象の公共事業：〇〇建設事業、△△建設事業他全10事業
- ③ 試算の対象事業規模：令和4年度末融資残高16兆円、5年度の出融資予定額は2兆円、6年度の出融資予定額は1兆円。
- ④ 分析期間：6年度から最長の債権が回収される31年度までの26年間。
- ⑤ 新規貸付分の回収予定については、既往貸付分の回収予定を踏まえ作成している。
- ⑥ 繰上償還と貸倒償却については、過去の実績に基づいて推計した率を試算前提としている。

	(実績)				(見込み)	(計画)	(試算前提)
年 度	元	2	3	4	5	6	7～31年度
繰上償還率	0.50%	1.52%	2.28%	1.25%	1.60%	1.15%	各年度1.34%
貸倒償却率	0.15%	0.19%	0.31%	0.25%	0.35%	0.30%	各年度0.25%

5. 補助金等が投入される理由、仕組み、国庫納付根拠法令等

(仮)財政融資活用機構法に定める業務を遂行するために、必要に応じ、一般会計から出資金及び補助金を受け入れている。

【根拠法令等】

[出資金規定]

<(仮)財政融資活用機構法>

第●条 政府は、必要があると認めるときは、予算で定める金額の範囲内において、機構に出資することができる。

[国庫納付規定]

<(仮)財政融資活用機構法>

第●条 機構は、毎事業年度の決算において計上した剰余金の額が零を上回るときは、当該剰余金のうち政令で定める基準により計算した額を準備金として政令で定める額となるまで積み立て、なお残余があるときは、その残余の額を当該事業年度終了後三月以内に国庫に納付しなければならない。

6. 特記事項など

(仮)財政融資活用機構は平成＊9年度において補正予算による追加融資を受け入れている。

(参考)当該事業の成果、社会・経済的便益など

① 出融資等実績

- ・ 令和3年度融資実行実績：2兆3,000億円
- ・ 令和4年度末融資残高：16兆円
- ・ 令和5年度出融資計画額：2兆円

② 主たる政策目的及び社会・経済的便益

公共事業における社会・経済的便益は以下のとおり試算される。

- ・ 〇〇建設事業： 国内における〇〇利便性向上における総便益5兆5,000億円。
- ・ △△建設事業： 国内における△△利便性向上における総便益2兆3,000億円。
- ・ □□建設事業他全8事業：国内における□□利便性向上等における総便益1兆5,000億円。

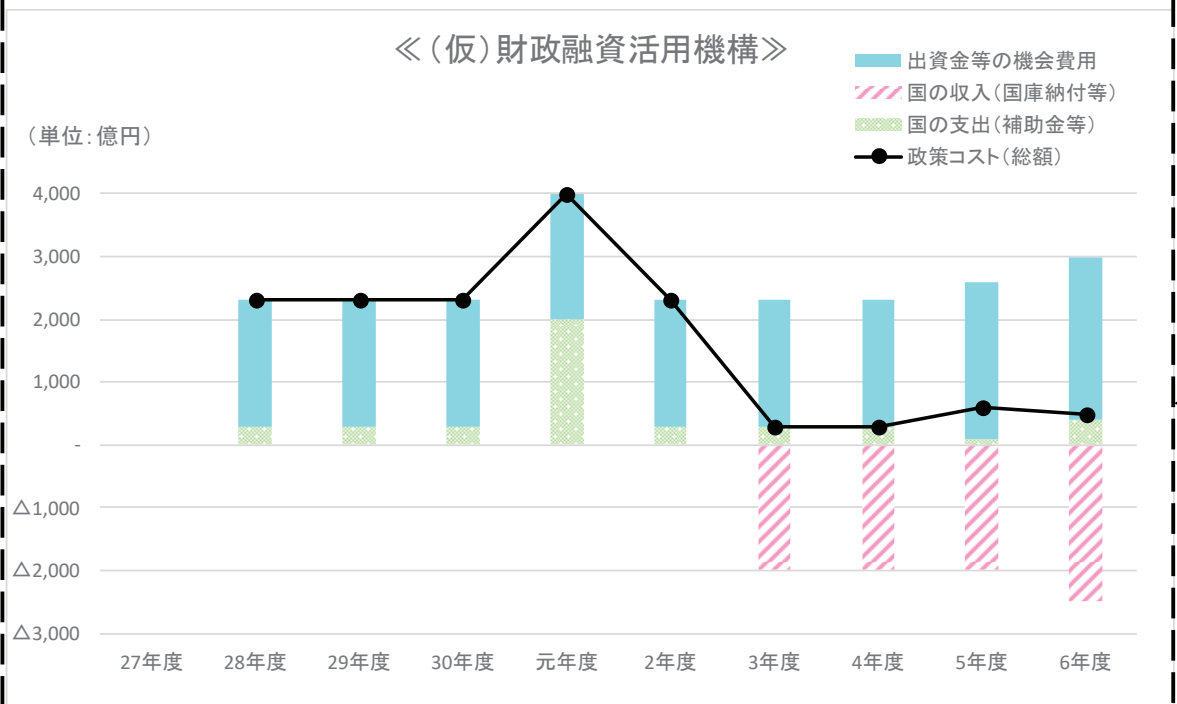
政策コストの構成要素として分析期間中に見込まれる補助金等・国庫納付等について、その仕組み（理由、投入ルール等）と根拠法令を記述しています。

上記以外に特に記載すべき事項を記述しています。

政策コスト分析の対象となった財投事業の成果とそれによって生じる社会・経済的便益について、これまでの実績と将来試算を参考として記述しています。

政策コスト分析結果の概要

【政策コストの推移】



(注) 各年度の政策コストについて、推計に適用される金利等の前提条件は異なる。

(単位: 億円)

年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度
政策コスト(総額)		2,300	2,300	2,300	4,000	2,300	300	300	600	500
国の支出(補助金等)		300	300	300	2,000	300	300	300	100	400
国の収入(国庫納付等)		-	-	-	-	-	△2,000	△2,000	△2,000	△2,500
出資金等の機会費用		2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,500	2,600

【政策コストの推移の解説】

【政策コスト分析結果(令和6年度)に対する財投機関の自己評価】

財投機関ごとに、直近 10 年の政策コストの推移を示しております。

(注) 各年度の政策コストは、推計に適用される金利などの前提条件が異なる点に留意が必要です。

財投機関による、政策コストの推移の解説、政策コスト分析結果に対する自己評価を記述しております。